

【中期目標期間（見込）評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	中期目標を上回っている	目標の達成状況が100%超
III	おおむね中期目標どおり達成している	目標の達成状況が90%超100%以下
II	中期目標を下回っている	目標の達成状況が60%超90%以下
I	中期目標を大幅に下回っている	目標の達成状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価	評価委員会の検証																																																																															
			論点	検証(案)																																																																														
01	<p>1 高度先進医療機器の計画的な更新・整備 医療環境や県民の医療需要の変化、新たな医療課題に適切に対応するとともに、病院の医療機能の維持・向上を図るため、放射線治療装置(リニアック)、MR I等の高度先進医療機器を計画的に更新し、整備を進める。</p> <p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 医療需要や患者動向の変化に迅速・柔軟に対応した診療科の変更に伴う医師、看護師、コメディカル等</p>	<p>より質の高い医療を提供するため、必要な高度先進医療機器を整備するとともに、それらの保有状況及び更新時期等について、基本的な計画を作成している。加えて、当センターの診療方針、財務状況等経営的な視点も考慮しつつ、既存機器の稼働状況、費用対効果を勘案するとともに、人材育成を見据えた視点から高度先進医療機器の整備を進めている。</p> <p>○ 平成27年度以降に更新・整備した代表的な高度先進医療機器の一覧 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>導入年度</th> <th>機器名</th> <th>27年度稼働件数</th> <th>28年度稼働件数</th> <th>29年度稼働件数</th> <th>30年度稼働件数</th> <th>2019年度稼働件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">27年度</td> <td>全身用磁気共鳴画像診断装置</td> <td>96</td> <td>812</td> <td>1,468</td> <td>1,717</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全身用コンピューター断層装置</td> <td>316</td> <td>10,315</td> <td>11,299</td> <td>11,952</td> <td></td> </tr> <tr> <td>心臓血管撮影装置(カテ室2)</td> <td>263</td> <td>1,109</td> <td>1,092</td> <td>1,205</td> <td></td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>心臓血管撮影装置(カテ室3)</td> <td>—</td> <td>201</td> <td>806</td> <td>811</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">29年度</td> <td>血管撮影装置</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>121</td> <td>315</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガンマカメラ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>327</td> <td>1,604</td> <td></td> </tr> <tr> <td>注射薬自動払出装置</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>131</td> <td>365</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">30年度</td> <td>心臓用SPECT装置</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>804</td> <td></td> </tr> <tr> <td>X線TV装置</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>194</td> <td></td> </tr> <tr> <td>微生物分類同定分析装置</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>605</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>PETCT装置</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>当センターの医療を支える医師・看護師・コメディカル等の優秀な医療スタッフを確保するため、医師補助・看護補助体制を強化した長時間勤務等の改善や増員によるローテーションの維持、地方独立行政法人化のメリットを活かした柔軟な雇用制度に積極的に取り組み、必要な職員の採用を行っている。</p>	導入年度	機器名	27年度稼働件数	28年度稼働件数	29年度稼働件数	30年度稼働件数	2019年度稼働件数	27年度	全身用磁気共鳴画像診断装置	96	812	1,468	1,717		全身用コンピューター断層装置	316	10,315	11,299	11,952		心臓血管撮影装置(カテ室2)	263	1,109	1,092	1,205		28年度	心臓血管撮影装置(カテ室3)	—	201	806	811		29年度	血管撮影装置	—	—	121	315		ガンマカメラ	—	—	327	1,604		注射薬自動払出装置	—	—	131	365		30年度	心臓用SPECT装置	—	—	—	804		X線TV装置	—	—	—	194		微生物分類同定分析装置	—	—	—	605		2019年度	PETCT装置	—	—	—	—		自己評価 IV	<p>高度先進医療機器の整備及び人員確保の努力による職員数の増員は評価できる。</p>
導入年度	機器名	27年度稼働件数	28年度稼働件数	29年度稼働件数	30年度稼働件数	2019年度稼働件数																																																																												
27年度	全身用磁気共鳴画像診断装置	96	812	1,468	1,717																																																																													
	全身用コンピューター断層装置	316	10,315	11,299	11,952																																																																													
	心臓血管撮影装置(カテ室2)	263	1,109	1,092	1,205																																																																													
28年度	心臓血管撮影装置(カテ室3)	—	201	806	811																																																																													
29年度	血管撮影装置	—	—	121	315																																																																													
	ガンマカメラ	—	—	327	1,604																																																																													
	注射薬自動払出装置	—	—	131	365																																																																													
30年度	心臓用SPECT装置	—	—	—	804																																																																													
	X線TV装置	—	—	—	194																																																																													
	微生物分類同定分析装置	—	—	—	605																																																																													
2019年度	PETCT装置	—	—	—	—																																																																													

項目No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価						評価委員会の検証																																																																									
								自己評価	論点	検証(案)																																																																							
	<p>の採用や配置の弾力的運用を行う。専門的知識を有する職員に対して、その専門性に応じた処遇が可能となる人事給与制度を構築することで、積極的に外部からの登用を図る。また、医師事務作業補助(医療クラーク)及び病棟・外来看護事務補助(看護クラーク)を拡充する。</p>	<p>○ 医師、看護師、コメディカル、医師事務補助、看護補助の職員数 単位:人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度初</th> <th>27年度初</th> <th>28年度初</th> <th>29年度初</th> <th>30年度初</th> <th>2019年度初</th> <th>増減(26→2019)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>202</td> <td>213</td> <td>216</td> <td>220</td> <td>220</td> <td>230</td> <td>+28</td> </tr> <tr> <td>(うち非常勤)</td> <td>(40)</td> <td>(41)</td> <td>(45)</td> <td>(44)</td> <td>(42)</td> <td>(48)</td> <td>(+8)</td> </tr> <tr> <td>看護師・助産師</td> <td>658</td> <td>694</td> <td>727</td> <td>710</td> <td>711</td> <td>763</td> <td>+105</td> </tr> <tr> <td>(うち非常勤)</td> <td>(68)</td> <td>(75)</td> <td>(79)</td> <td>(72)</td> <td>(70)</td> <td>(80)</td> <td>(+12)</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>192</td> <td>194</td> <td>210</td> <td>218</td> <td>232</td> <td>243</td> <td>+51</td> </tr> <tr> <td>(うち非常勤)</td> <td>(20)</td> <td>(19)</td> <td>(17)</td> <td>(15)</td> <td>(14)</td> <td>(11)</td> <td>(▲9)</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>53</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>+1</td> </tr> <tr> <td>看護補助</td> <td>105</td> <td>102</td> <td>102</td> <td>97</td> <td>91</td> <td>94</td> <td>▲11</td> </tr> </tbody> </table>						項目	26年度初	27年度初	28年度初	29年度初	30年度初	2019年度初	増減(26→2019)	医師	202	213	216	220	220	230	+28	(うち非常勤)	(40)	(41)	(45)	(44)	(42)	(48)	(+8)	看護師・助産師	658	694	727	710	711	763	+105	(うち非常勤)	(68)	(75)	(79)	(72)	(70)	(80)	(+12)	コメディカル	192	194	210	218	232	243	+51	(うち非常勤)	(20)	(19)	(17)	(15)	(14)	(11)	(▲9)	医師事務補助	53	51	52	54	54	54	+1	看護補助	105	102	102	97	91	94	▲11		
項目	26年度初	27年度初	28年度初	29年度初	30年度初	2019年度初	増減(26→2019)																																																																										
医師	202	213	216	220	220	230	+28																																																																										
(うち非常勤)	(40)	(41)	(45)	(44)	(42)	(48)	(+8)																																																																										
看護師・助産師	658	694	727	710	711	763	+105																																																																										
(うち非常勤)	(68)	(75)	(79)	(72)	(70)	(80)	(+12)																																																																										
コメディカル	192	194	210	218	232	243	+51																																																																										
(うち非常勤)	(20)	(19)	(17)	(15)	(14)	(11)	(▲9)																																																																										
医師事務補助	53	51	52	54	54	54	+1																																																																										
看護補助	105	102	102	97	91	94	▲11																																																																										
02	<p>1 待ち時間及び検査・手術待ちの改善等 診療科間の情報の共有や他の医療機関との連携による外来予約システムの活用など医療体制を充実し、診療及び検査等の業務の効率化と迅速化を図る。 また、診療時間の延長等の診療時間の弾力化等各種取組により、待ち時間の短縮を図る。検査の効率的な実施や検査機器の稼働率の向上等により、検査待ち時間の改善を図る。待ち時間の実態調査を行い、患者からの意見・要望に対して、改善計画を立案・実施する。医師、看護師等の適正配置及び手術室の効率的な運用等により、手術の実施体制を再整備し、手術件数の増加等による手術待ちの改善を図る。</p> <p>3 医療に関する相談体制の充実 総合相談センターがあらゆる相談に対応できるように関係部署と連携し、相談機能を充実させる。</p>	<p>診療や検査が円滑に行われるために、以下のような対策を継続して実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査が必要な患者に対して診察前に検査を実施 ・診察待ち時間に看護師による患者への指導・説明 ・入院患者への説明の一元化 ・病診連携患者の優先診療 ・検査技師の増員、検査ブースの増設 ・外部コンサルタントの活用 等 <p>その結果、待ち時間及び検査については、外来患者が平成27年度以降年間34万人程度で高止まりしていること及び在院日数短縮による入院患者増加の影響により、診療及び検査にかかる平均待ち時間は横ばいだが、待ち時間30分以内の患者割合は増加傾向となった。</p> <p>手術については、手術の内容に応じた手術枠の弾力的運用や手術機材のキット化(あらかじめセットしている状態)、麻酔医の増員等により、手術待ち時間や手術準備期間の短縮を図ることで手術室の稼働率の向上を図っている。</p> <p>○ 外来患者の平均待ち時間の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来患者数</td> <td>329,128人</td> <td>340,070人</td> <td>333,749人</td> <td>336,658人</td> <td>336,232人</td> <td></td> <td>+7,104人</td> </tr> <tr> <td>平均待ち時間</td> <td>24分</td> <td>28分</td> <td>27分</td> <td>24分</td> <td>35分</td> <td></td> <td>+11分</td> </tr> <tr> <td>30分以内割合</td> <td>35.0%</td> <td>41.2%</td> <td>51.1%</td> <td>47.4%</td> <td>47.9%</td> <td></td> <td>+12.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 超音波検査待ち時間の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減(26→30)	外来患者数	329,128人	340,070人	333,749人	336,658人	336,232人		+7,104人	平均待ち時間	24分	28分	27分	24分	35分		+11分	30分以内割合	35.0%	41.2%	51.1%	47.4%	47.9%		+12.9%	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減									IV	<p>手術待ち時間や手術準備期間の短縮により、手術室の稼働率の向上を図ったことは評価できる。手術室の稼働率は限界と思われるので、安全には留意されたい。</p> <p>また、外国人への医療通訳体制の整備は評価できる。</p>																								
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減(26→30)																																																																										
外来患者数	329,128人	340,070人	333,749人	336,658人	336,232人		+7,104人																																																																										
平均待ち時間	24分	28分	27分	24分	35分		+11分																																																																										
30分以内割合	35.0%	41.2%	51.1%	47.4%	47.9%		+12.9%																																																																										
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減																																																																										

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価						自己 評価	評価委員会の検証	
		論	点	検		証(案)				
	がん患者及びその家族の在宅医療支援については、患者のニーズを踏まえ、がん相談支援センターの機能の充実を図る。						(26→30)			
		検査件数	1,955件	2,078件	2,066件	2,110件	2,215件	+260件		
		60分未満割合	65.8%	72.6%	73.9%	71.7%	84.7%	+18.9%		
		○ 時間内手術室稼働率・総手術件数								
		項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	
		稼働率	66.8%	68.7%	66.8%	69.6%	74.1%		+7.3%	
		総手術件数	6,992件	7,325件	7,264件	7,342件	7,534件		+542件	
		医療相談体制については、総合相談センターにて担当者が常駐する窓口を設置しており、関係部署との連携を図り、あらゆる相談に迅速に対応できる体制を整えている。また、増加する外国人の受診を支援するため、県国際交流センターへの医療通訳ボランティアの派遣依頼や通訳専門職員の採用、翻訳アプリ搭載のタブレットの配備、電話通訳サービスの導入等、通訳体制を充実させている。								
		○ 医療相談、医療通訳の対応状況 単位：件								
		項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	
		医療相談件数	4,033	4,687	4,914	4,794	4,870		837	
		通訳(職員)	—	—	627	788	907		—	
		通訳(派遣)	223	331	212	253	232		+9	
05	6 小児医療センター(こども医療) 小児医療の拠点病院として、一般の医療機関では対応が困難な小児の疾患に対し、高度で専門的な医療を提供する。また、二次・三次小児救急患者を24時間体制で受け入れ、重篤な小児患者に対応するため、P I C U(小児集中治療室)を増床整備する。 平成27年度に新設する医療型障	小児医療の拠点病院として、一般の医療機関では対応が困難な小児の疾患に対し、高度で専門的な医療を提供している。また、二次・三次小児救急患者を24時間体制で受け入れ、重篤な小児患者に対応するため、平成27年度にP I C U(小児集中治療室)を2床増床(合計6床)した。 濃厚な医療的ケアが必要な重症心身障がい児が入所する医療型障害児入所施設においては、容態悪化に対応すべく小児医療センターの医師呼び出し体制を構築するとともに、総合リハビリテーションセンター、臨床工学部、薬剤部、栄養管理部の他、医療安全部、感染対策部等と連携したチーム医療を推進している。						IV		小児救急救命センターの設置に向け、地域との連携による症例数の確保などに努力されたい

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価						評価委員会の検証																																	
								自己 評価	論 点	検 証 (案)																															
	<p>害児入所施設における濃厚な医療的ケアを要する重症心身障がい児に対して、各関係部署と連携したチーム医療を推進する。</p> <p>小児救命救急センターとして必要な整備基準（医師・看護師及び他の医療従事者の確保、施設及び設備）を満たすような体制づくりに努める。</p>	<p>○ PICU稼働状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減 (26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ベッド数</td> <td>4床</td> <td>4床→6床</td> <td>6床</td> <td>6床</td> <td>6床</td> <td></td> <td>+2床</td> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>126人</td> <td>215人</td> <td>190人</td> <td>225人</td> <td>203人</td> <td></td> <td>+77人</td> </tr> <tr> <td>稼働率</td> <td>78.6%</td> <td>59.7%</td> <td>51.5%</td> <td>74.8%</td> <td>68.1%</td> <td></td> <td>▲10.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.7 (4床→6床)</p>						項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	ベッド数	4床	4床→6床	6床	6床	6床		+2床	入院患者数	126人	215人	190人	225人	203人		+77人	稼働率	78.6%	59.7%	51.5%	74.8%	68.1%		▲10.5%		
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)																																		
ベッド数	4床	4床→6床	6床	6床	6床		+2床																																		
入院患者数	126人	215人	190人	225人	203人		+77人																																		
稼働率	78.6%	59.7%	51.5%	74.8%	68.1%		▲10.5%																																		
07	<p>1 医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用</p> <p>医療情報の分析による臨床データを各診療科へフィードバックし、医療の質向上を図るとともに効果的、効率的治療を実施する。</p> <p>また、地域連携医療機関等との医療情報共有化の推進等により医療連携の強化を図る。</p> <p>2 集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用</p> <p>電子カルテシステムに集積した院内の診療データを合同カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用するため、診療情報委員会を中心に他の委員会等と連携して、データの処理を実施する。また、医療の質の向上のために、診療のプロセスとアウトカムに関する指標 (Quality Indicator) を公表し、Q I活動を積極的に推進する。</p>	<p>電子カルテ等の診療情報から抽出したDPCデータを分析し、診療科別に報告会を実施した。これにより、ベンチマーク分析を通して各診療科のポジショニングを把握し、在院日数や医療資源投入金額、コーディングに関して改善点を抽出して診療科医師へフィードバックしている。従来は外部のコンサルティング会社に委託していたが、平成27年度より院内の多職種による分析チームを立ち上げ（平成29年度に更に増員）、平成30年度より報告会での指摘内容について、実施状況を定量的に評価することを開始している。</p> <p>医療の質向上のためのQ I活動については、従来からの日本病院会及び全国自治体病院協議会でのQ I活動に継続的に参加するとともに、平成28年度からは京都大学が実施しているQ I P事業にも参加している。また、平成27年度より、各団体からのフィードバックされた結果を院内の電子掲示板に公開し、すべての職員が閲覧できる環境を構築した。</p> <p>○ DPC分析報告会の実施状況とコンサルティング委託費用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減 (26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分析報告会数</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>9</td> <td></td> <td>+6</td> </tr> <tr> <td>定量評価</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>委託費用 (千円)</td> <td>10,585</td> <td>7,737</td> <td>7,230</td> <td>6,505</td> <td>3,003</td> <td></td> <td>▲7,582</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成27年度より、院内の分析チームの活動開始</p>						項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	分析報告会数	3	9	9	8	9		+6	定量評価	×	×	×	×	○		-	委託費用 (千円)	10,585	7,737	7,230	6,505	3,003		▲7,582	IV	診療情報の活用は評価できる。引き続き継続されたい。
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)																																		
分析報告会数	3	9	9	8	9		+6																																		
定量評価	×	×	×	×	○		-																																		
委託費用 (千円)	10,585	7,737	7,230	6,505	3,003		▲7,582																																		
10	<p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <p>へき地医療拠点病院として、医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援を継続して実施する。</p>	<p>へき地医療拠点病院における医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援として、高山赤十字病院、県立下呂温泉病院、下呂市立金山病院、郡上市市民病院等への人的支援を継続して実施している。</p> <p>○ 他の医療機関への人的支援状況</p> <p style="text-align: right;">単位：人日</p>						III	医師、看護師を含めたチームとしての派遣支援を期待する。																																

項目No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価								評価委員会の検証		
										自己評価	論点	検証(案)
	る。	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)			
		県立下呂温泉病院	604	609	623	629	437		▲167			
		高山赤十字病院	12	12	12	378	26		+14			
		揖斐厚生病院	1	1	1	0	5		+4			
		下呂市立金山病院	12	12	12	12	12		±0			
		藤橋国保診療所 ※	0	0	1	0	0		±0			
		久々野診療所 ※	0	9	0	0	0		±0			
		郡上市民病院	109	67	71	70	49		▲60			
		中濃厚生病院	0	2	0	0	0		±0			
		久美愛厚生病院	14	23	0	0	0		▲14			
		計	1,004	735	720	1,089	529		▲475			
		※岐阜県へき地医療支援機構依頼分										
15	2 診療情報のバックアップシステムの構築 診療情報の外部保管を実施し、大規模災害時でも活用できるバックアップシステムを構築する。	免震構造の本館に電算室を新設し、管理棟(耐震構造)の電算室との間で相互バックアップを実施するとともに、県立下呂温泉病院への遠隔地バックアップのシステムを構築し、大規模災害時にも診療データが完全に消失しないような体制を整備した。 さらに、大規模災害、大規模システム障害により医療総合情報システムが停止した場合であっても診療の継続が可能な環境を整備するために、ローカルPCへ診療情報を蓄積する仕組みを構築し、各病棟、一般外来及び救急外来へ配備した。	IV	災害時のバックアップシステムの構築については、今後他病院との連携も期待する。								
18	1 レスパイトケアのための短期入所施設の整備・充実 在宅で重症心身障がい児を抱える家族の精神的・身体的負担の軽減を図るためのレスパイトケア(障がい児を在宅でケアしている家族を癒すため、一時的にケアを代替し、リフレッシュを図ってもらう家族支援サービス)を実施する。 2 家族に対する在宅医療指導等の実施 在宅移行に向けた家族への在宅医療指導を行い、障がい受容と養育の援助のための教育的入院を実施する。	平成28年7月から県内の在宅で生活する重症心身障がい児・者と契約し、レスパイトケアを実施しており、定員2人(空床利用型)で短期入所の受入れを開始した。また、利用者からの要望や利用率の高さを勘案し、平成29年11月に定員を2人から3人に増員した。 家族に対しては、在宅移行に向けて、家族の障がいの受容や在宅療育に必要な技術等を指導するための教育入所用居室2室の確保や指導マニュアルの作成等、受入体制を整えている。	IV	レスパイトケアのための短期入所の受入れ開始及び定員の増員は評価できる。さらなる増床を期待したい。 在宅療養に円滑に移行するために、退院後の病棟看護師による訪問の実施、訪問看護ステーションとの連携を期待したい。 在宅療養中の障がい児の急変時についても								

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価		評価委員会の検証	
			自己 評価	論 点	検 証(案)
	<p>また、在宅移行後も安心して地域での生活を送ることができるよう、地域の医療機関や福祉サービス事業者との連携を行う。</p> <p>3 在宅移行後の容体悪化等に対する医療支援 在宅移行後の容体悪化等に対する入院等の医療支援を実施する。</p>	<p>在宅移行後の容体悪化等に対しては、かかりつけ医療機関への受診及び当センターでの救急医療や入院治療等の体制を整備しており、安心して在宅生活ができるよう医療支援ができています。</p>			<p>入院対応できるよう、あんしん病床登録を期待したい。</p>
24	<p>多様な契約手法の導入 入札・契約事務について、複数年契約や複合契約などの多様な契約手法を導入し、効果的・効率的な運営や経費の節減に努めるとともに、事務の合理化を図る。</p>	<p>業務内容の集約化・簡素化・迅速化・費用削減等の提案を評価するプロポーザル方式による業者選定や複数年契約等多様な契約手法を導入し、経費の削減を図った。 医療機器については、複数メーカーの機種選定を勧め、ベンチマークを利用した交渉による購入を行い、大幅なコスト削減ができた。 診療材料については、ベンチマークを活用して新規採用品目の価格を抑えるとともに、既存使用品目も継続して価格交渉を行い、節減効果を維持した。 医薬品については、経費圧縮等に関するアドバイザーの活用により、継続的な価格交渉を行った。 庁舎管理部門においては、競争が不十分な可能性がある委託契約を洗い出し、対象の委託契約について入札方法の見直しを行った。また、必要に応じて複数年契約化の検討や過剰になっている保守契約の点検内容の見直しも併せて実施し、コスト削減を図った。</p>	IV		<p>多様な契約手法の導入など、独立行政法人化のメリットを活かした取組は評価できる。</p>

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価							評価委員会の検証																																																																																							
		自己 評価	論 点	検 証(案)																																																																																												
25 □	<p>1 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用</p> <p>長期入院の患者数を常に把握しながら空床管理マニュアルを活用し、あわせて地域の医療機関を訪問しながら、病診連携によって退院調整を促進し、平均在院日数の短縮及び病床利用率の向上に努める。</p> <p>また、医療機器については、開放型病院登録医師(地域開業医師)との「病診連携」、「病病連携」を密にし、検査・外来予約制度を活用することで、医療機器の稼働率の向上を図る。あわせて、手術室の効率化を図り、手術件数の増加による収益確保に努める。</p>	<p>収入の確保については、医療制度の影響による平均在院日数短縮に伴い、病床利用率は減少傾向ではあるが、適切な病床管理による病床利用率の向上に努めたほか、診療報酬改定により新設、増点された項目について迅速な対応を行うことで入院診療単価の増額による収益確保に努めた。</p> <p>また、平成24年3月にはDPC医療機関群II群(現:特定病院群)に指定され、それを維持していることで、入院診療単価の増額に貢献している。</p> <p>○ 収入関係数値の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減 (26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">外来</td> <td>患者数</td> <td>人</td> <td>329,128</td> <td>340,070</td> <td>333,749</td> <td>336,658</td> <td>336,232</td> <td>+7,104</td> </tr> <tr> <td>平均患者数</td> <td>人/日</td> <td>1,349</td> <td>1,399</td> <td>1,373</td> <td>1,380</td> <td>1,378</td> <td>+29</td> </tr> <tr> <td>診療額</td> <td>百万円</td> <td>4,940</td> <td>5,449</td> <td>5,826</td> <td>5,818</td> <td>5,969</td> <td>+1,029</td> </tr> <tr> <td>診療単価</td> <td>円/日</td> <td>15,011</td> <td>16,023</td> <td>17,458</td> <td>17,282</td> <td>17,752</td> <td>+2,741</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">入院</td> <td>患者数</td> <td>人</td> <td>194,126</td> <td>189,348</td> <td>189,660</td> <td>192,924</td> <td>191,035</td> <td>▲3,091</td> </tr> <tr> <td>平均患者数</td> <td>人/日</td> <td>532</td> <td>517</td> <td>520</td> <td>529</td> <td>523</td> <td>▲9</td> </tr> <tr> <td>診療額</td> <td>百万円</td> <td>14,687</td> <td>14,759</td> <td>14,802</td> <td>15,338</td> <td>16,053</td> <td>+1,366</td> </tr> <tr> <td>診療単価</td> <td>円/日</td> <td>75,659</td> <td>77,948</td> <td>78,044</td> <td>79,501</td> <td>84,032</td> <td>+8,373</td> </tr> <tr> <td>在院日数</td> <td>日</td> <td>12.2</td> <td>11.7</td> <td>11.9</td> <td>12.0</td> <td>11.4</td> <td>▲0.8</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>%</td> <td>90.1</td> <td>87.7</td> <td>87.0</td> <td>87.5</td> <td>86.7</td> <td>▲3.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率 分子: 延べ入院患者数 (=当日末在院患者数+退院患者数) 分母: 運用病床数×日数</p>	項目		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	外来	患者数	人	329,128	340,070	333,749	336,658	336,232	+7,104	平均患者数	人/日	1,349	1,399	1,373	1,380	1,378	+29	診療額	百万円	4,940	5,449	5,826	5,818	5,969	+1,029	診療単価	円/日	15,011	16,023	17,458	17,282	17,752	+2,741	入院	患者数	人	194,126	189,348	189,660	192,924	191,035	▲3,091	平均患者数	人/日	532	517	520	529	523	▲9	診療額	百万円	14,687	14,759	14,802	15,338	16,053	+1,366	診療単価	円/日	75,659	77,948	78,044	79,501	84,032	+8,373	在院日数	日	12.2	11.7	11.9	12.0	11.4	▲0.8	病床利用率	%	90.1	87.7	87.0	87.5	86.7	▲3.4	IV		DPC特定病院群を維持している点は評価できる。
項目		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)																																																																																								
外来	患者数	人	329,128	340,070	333,749	336,658	336,232	+7,104																																																																																								
	平均患者数	人/日	1,349	1,399	1,373	1,380	1,378	+29																																																																																								
	診療額	百万円	4,940	5,449	5,826	5,818	5,969	+1,029																																																																																								
	診療単価	円/日	15,011	16,023	17,458	17,282	17,752	+2,741																																																																																								
入院	患者数	人	194,126	189,348	189,660	192,924	191,035	▲3,091																																																																																								
	平均患者数	人/日	532	517	520	529	523	▲9																																																																																								
	診療額	百万円	14,687	14,759	14,802	15,338	16,053	+1,366																																																																																								
	診療単価	円/日	75,659	77,948	78,044	79,501	84,032	+8,373																																																																																								
	在院日数	日	12.2	11.7	11.9	12.0	11.4	▲0.8																																																																																								
	病床利用率	%	90.1	87.7	87.0	87.5	86.7	▲3.4																																																																																								

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																						
		自己 評価	論 点	検 証(案)																																																									
26	<p>1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し、適正在庫管理の徹底 他病院での医薬品・診療材料等の購入価格や後発医薬品の使用状況を調査・分析し、消費管理を軸とした物流システムにより、適正在庫を把握し、効率的・経済的な購入に努め、費用の削減を図る。</p> <p>2 後発医薬品の効率的採用 平成26年度より導入された後発医薬品指数による後発医薬品への切り替えを選定ルールに基づき継続して実施する。診療に支障を来さない後発医薬品への円滑な切り替えを行うとともに、効率的・経済的な購入に努める。</p>	<p>業務運営の見直しについて、「多様な契約手法の導入」に記載した取組を通じて、医薬品・診療材料等の購入方法の見直し、適正在庫管理の徹底や後発医薬品(ジェネリック医薬品)の効率的採用等による費用の削減を図った。また、経費圧縮等に関するアドバイザーを活用することにより、医薬品の適正な管理、購入価格の削減に努めている。SPD業務については、継続して各部署における診療材料の定数品目及び数量の見直しを行い、効率的な管理を推進した。</p> <p>○ 医薬収益に対する材料費比率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減 (26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材料比率 ※1</td> <td>29.2</td> <td>30.9</td> <td>31.4</td> <td>29.4</td> <td>27.8</td> <td></td> <td>▲1.4</td> </tr> <tr> <td>(内 薬品費) ※2</td> <td>13.4</td> <td>14.7</td> <td>15.6</td> <td>13.2</td> <td>12.5</td> <td></td> <td>▲0.9</td> </tr> <tr> <td>(内 診療材料費)</td> <td>15.8</td> <td>15.7</td> <td>15.2</td> <td>15.6</td> <td>15.2</td> <td></td> <td>▲0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 重症心身障がい児施設を除く ※2 H29 から高額医薬品を除く</p> <p>○ ジェネリック医薬品使用率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減 (26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対全医薬品 ※1</td> <td>10.2</td> <td>20.9</td> <td>21.9</td> <td>24.9</td> <td>26.3</td> <td></td> <td>+16.1</td> </tr> <tr> <td>対後発医薬品がある 医薬品 ※2</td> <td>—</td> <td>80.7</td> <td>85.5</td> <td>84.3</td> <td>86.4</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：[後発医薬品の数量] / [全医薬品の数量] ※2：[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量])</p>	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	材料比率 ※1	29.2	30.9	31.4	29.4	27.8		▲1.4	(内 薬品費) ※2	13.4	14.7	15.6	13.2	12.5		▲0.9	(内 診療材料費)	15.8	15.7	15.2	15.6	15.2		▲0.6	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	対全医薬品 ※1	10.2	20.9	21.9	24.9	26.3		+16.1	対後発医薬品がある 医薬品 ※2	—	80.7	85.5	84.3	86.4		—	IV		費用削減努力は評価できる。
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)																																																						
材料比率 ※1	29.2	30.9	31.4	29.4	27.8		▲1.4																																																						
(内 薬品費) ※2	13.4	14.7	15.6	13.2	12.5		▲0.9																																																						
(内 診療材料費)	15.8	15.7	15.2	15.6	15.2		▲0.6																																																						
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)																																																						
対全医薬品 ※1	10.2	20.9	21.9	24.9	26.3		+16.1																																																						
対後発医薬品がある 医薬品 ※2	—	80.7	85.5	84.3	86.4		—																																																						

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点(●))、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		自己 評価	論 点	検 証(案)																									
28	3 病児・病後児保育を含めた院内 保育施設の整備及び充実 24時間保育を継続的に実施し、 病児・病後児保育施設の整備及び運 営に取り組み、職員が安全かつ安心 して勤務できる環境をつくる。	平成24年2月から実施している24時間保育を継続し、院内保育所の在り方について職員との意見交流を図り、保育の質の向上や運営体制の充実を行うなど、環境整備に取り組んだ。 平成28年4月から病児・病後児保育を開始し、職員からの改善要望により、平成29年4月より定員を3人から6人へと変更した。この結果、多くの職員が利用することができている。 また、平成30年3月からネット予約システムを導入し、職員の利便性の向上を図った。 病児・病後児保育施設の利用資格の拡大について検討を行い、平成31年1月から利用資格の一部拡大について試行した。また、更なる利用資格の拡大について2019年度中に実施する計画を立てた。	IV		病児・病後児保育の開始及び定員の増員は評価できる。																								
		○ 院内保育所の運営状況(年度末現在) ・入所施設(こばと) 単位:人																											
		<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> <th>増減 (26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入所者数</td> <td>43</td> <td>47</td> <td>47</td> <td>54</td> <td>55</td> <td></td> <td>+12</td> </tr> <tr> <td>保育士数</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>21</td> <td></td> <td>+12</td> </tr> </tbody> </table>		項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)	入所者数	43	47	47	54	55		+12	保育士数	9	10	18	22	21		+12		
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	増減 (26→30)																						
入所者数	43	47	47	54	55		+12																						
保育士数	9	10	18	22	21		+12																						
		・病児・病後児保育施設(バンビ) 単位:人																											
		<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>2019年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>94</td> <td>283</td> <td>206</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育士・看護師数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	28年度	29年度	30年度	2019年度	延べ利用者数	94	283	206		保育士・看護師数	3	3	3												
項目	28年度	29年度	30年度	2019年度																									
延べ利用者数	94	283	206																										
保育士・看護師数	3	3	3																										
		※H28.4 運営開始、定員 H28:3人 → H29:6人																											